



内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 資料

- (1) ホストタウンの現状
- (2) ラグビーワールドカップ開催時のホストタウンの取組
- (3) 復興ありがとうホストタウンの最近の取組状況
- (4) 共生社会ホストタウンの最近の取組状況
- (5) ホストタウンの海外への情報発信

(1) ホストタウンの現状①ホストタウン登録数

- ホストタウン登録数は、392件、自治数464、相手国・地域数156。(10月末現在)
- 相手国・地域の増加状況を大陸別にみると、どの大陸でも6割を超え、大会に参加する国・地域の75%がホストタウンを有していることになっている。
- 各ホストタウンでは、既に、テストイベントの機会などに各国・地域から続々と選手が訪問し、市民と交流。選手からは、「まるで家に帰ってきたようだ」といったコメントが多く出ている。選手を応援するホストタウンの応援の力が発揮されつつある。

大陸別ホストタウン登録状況

5大陸	2019/10月末
アフリカ	34 / 54 (63%)
アメリカ	31 / 41 (76%)
アジア	29 / 44 (66%)
ヨーロッパ	45 / 51 (88%)
オセアニア	17 / 17 (100%)
計	156 / 207 (75%)



(1) ホスタウンの現状②～台風等に関連したホスタウンの取組事例～

韓国で開催されたU18野球ワールドカップに出場したニカラグアの選手がトランジットで成田空港に降り立った際に台風に遭遇し、困っていたところ、ホスタウンとなっている甘楽町がサポート。

群馬県甘楽町



中学生と交流するニカラグア選手

台風被害があった山武市では、ホスタウン担当である国際交流員（スリランカ人）が、在住スリランカ人の支援で活躍。

千葉県山武市



ホスタウン交流時の模様

台風や豪雨被害があった佐倉市に、TICAD7サイドイベントで交流を深めたボツワナの在京大使がお見舞いに訪問。

千葉県佐倉市



市長訪問時の模様

(1) ホスタウンの現状③～事後交流型ホスタウンの推進について～

事後交流型ホスタウン※をより一層推進していくため、
愛称を「**ただいま・おかえりホスタウン**」としてPR。

※「事前合宿」の招致が難しい自治体を含め、全国にホスタウンの取組を広げていくため、東京大会の競技終了後、選手がホスタウンを訪問し、地元の方と様々な交流を行うもの

「ただいま・おかえりホスタウン」のイメージ

大会前

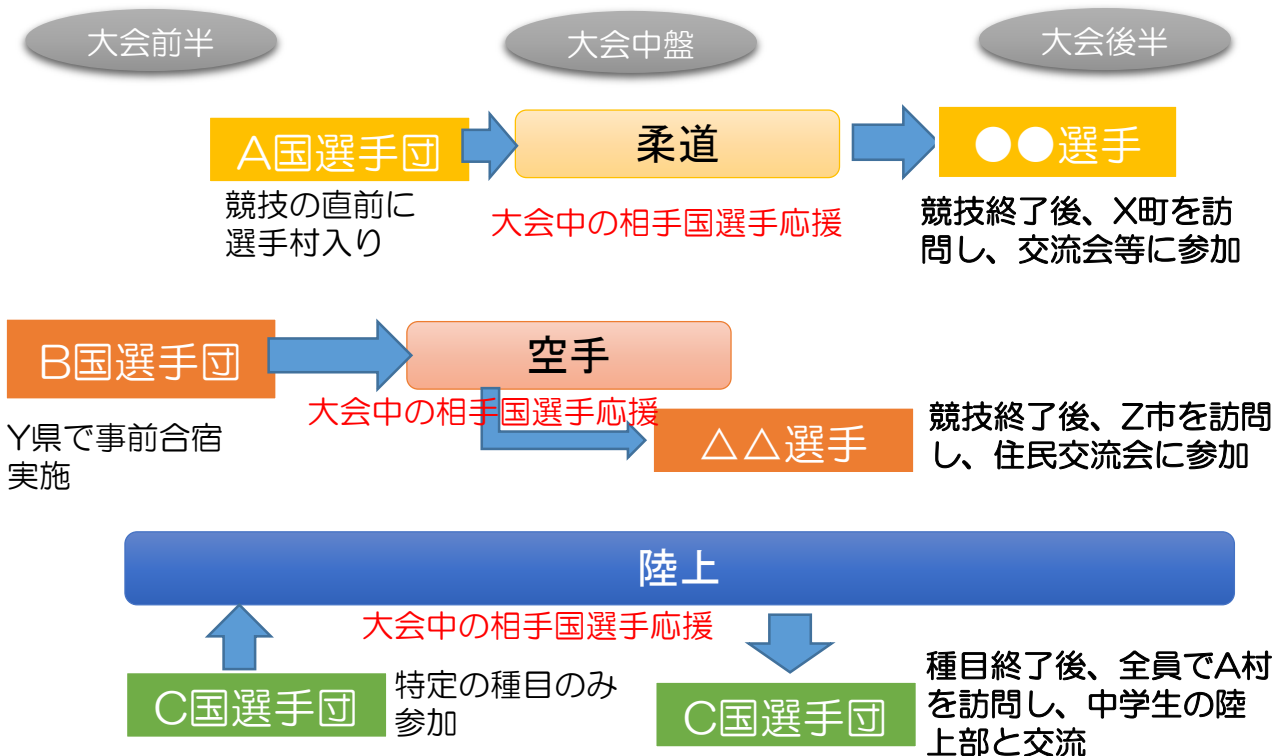
➤住民や子どもたちが相手国・地域と文化、経済、食などを通じた交流を活発に実施

(例)

- ・在日大使館関係者との交流、相手国/地域文化の学び
- ・学校間交流 等

➤縁のあるオリンピックO B等を招いての交流

オリンピック・パラリンピック大会期間中



(2) ラグビーワールドカップ開催時のホストタウンの取組

- 全国のホストタウンがラグビーワールドカップ開催時にキャンプ地等となり、来日した選手達と住民との交流を実施。
＜主な事例＞

■岩手県宮古市×ナミビア

台風19号の影響により釜石での試合が中止となったが、「被害を受けた市民を元気づけたい」とナミビア代表選手が宮古駅前などを訪れ、市民を激励。カナダ代表の釜石でのボランティアの様子とともに大きな話題となった。

■福島県いわき市×サモア

歓迎レセプションや市内幼稚園訪問、公開練習等を通じて市民との交流を深めた。サモアvsロシアの応援バスツアーには50名の市民が参加。市内商業施設でのサモアvs日本のパブリックビューイングには約500名が訪れた。

■神奈川県横浜市×英国（スコットランド、アイルランド）

スコットランド代表HCによる市内高校生向けラグビー教室や、アイルランド代表と関東学院大学ラグビー部の交流など、子どもたちが世界トップレベルの選手と触れ合える貴重な機会を提供。

■福岡県北九州市×英国（ウェールズ）

2018年以降、ウェールズラグビー協会と連携してラグビー教室や市民交流イベントなどを実施。直前キャンプ中の公開練習では15,000人を超える来場者がウェールズ国歌等を大合唱して歓迎。最終戦の翌日には、新聞にウェールズラグビー協会からの感謝の意を込めた全面広告が掲載された。



宮古駅前を訪れたナミビア代表選手との記念撮影



いわき市からの市民応援団（熊谷ラグビー場）



公開練習時のウェールズ国歌等の合唱

(3) 復興ありがとうホストタウンの最近の取組状況

- 「復興ありがとうホストタウン連絡協議会」の設立を宣言。(第3回ホストタウン首長会議(2019年6月11日))
- 第1回連絡協議会総会をラグビーワールドカップ会場の岩手県釜石市で開催(7月27日)。
- 第2回連絡協議会総会を福島県Jヴィレッジで開催(11月4日)。
3匹のポケモンの「復興ありがとうホストタウン大使」への任命、「復興ありがとうホストタウン」登録証の授与のほか、「復興ありがとうホストタウンサミット」として、ブラインドサッカー親善試合(日本vsアルゼンチン)、1964年海外金メダリストの講演、福島の子供たちによるアルゼンチン文化の発信等が行われた。
- 復興ありがとうホストタウン登録数は27件。



【首長会議】 連絡協議会設立宣言



第1回連絡協議会総会



第2回連絡協議会総会



大使に任命されたポケモンたち
(ラッキー、ラプラス、イッシュテ)



【サミット】 ブラサカ親善試合



【サミット】 子どもたちによるアルゼンチンの踊りと演奏

(4) 共生社会ホストタウンの最近の取組状況

- 共生社会ホストタウンは8月に+6件、10月に+17件を登録し、現在37件。
- 先導的共生社会ホストタウンは8月に9件、10月に3件を認定し、現在12件。
- 第2回の「共生社会ホストタウンサミット」を福岡県飯塚市で開催（10月20日）。全国の共生社会ホストタウンが連携し、パラリンピアン¹の講演やパネルディスカッション、共生社会ホストタウン登録証の交付等を通じて、情報発信と連携強化を図った。
- 今後とも、共生社会ホストタウンの質的・量的な充実を進めていく。



第2回共生社会ホストタウンサミット



共生社会ホストタウン登録証交付

※共生社会ホストタウン登録済み自治体；37件 **赤字**は先導的共生社会ホストタウン；12件

釧路市、滝川市、弘前市、**三沢市**、**遠野市**、仙台市、大館市、鶴岡市、酒田市、東根市、渋川市、富岡市、成田市、浦安市、**世田谷区**、**江戸川区**、国分寺市、**川崎市**、小松市、富士河口湖町、**浜松市**、伊勢市、守山市、**神戸市**、**明石市**、鳥取市・鳥取県、益田市、**宇部市**、高松市、北九州市、**飯塚市**、**田川市**、築上町、**大分市**、中津市、佐伯市、宮崎市（2019年10月11日現在）

(5) ホストタウンの海外への情報発信① ～フランス・パリ～ (2019年7月)

- 2024年大会の開催地フランス・パリで「ホストタウン」の取組を情報発信。フランスを相手国とするホストタウン（山梨県、富士吉田市、富士河口湖町、鎌倉市、高山市、金沢市、豊岡市）と内閣官房オリパラ事務局が、「Japan Expo」(4日間で25万人以上が来場)に出展し、フランスとの交流の様子や地域の魅力をPR。
→ 1000件を超えるアンケート結果では、97%がホストタウンを評価、72%が自分の街でもやりたいと答えた。
- 2024年大会関係機関（2024年パリ大会担当関係省代表、大会組織委員会、オリンピック委員会、パラリンピック委員会など）を戸別訪問し、「ホストタウン」の取組をPR。



(5) ホストタウンの海外への情報発信②～アメリカ・ロサンゼルス～ (2019年9月)

- 2028年大会の開催地アメリカ・ロサンゼルスで「復興ありがとうホストタウン」の取組を情報発信。アメリカを相手国とする「復興ありがとうホストタウン」（岩手県花巻市、大船渡市、福島県喜多方市、南相馬市）と内閣官房オリパラ事務局が「JAPAN HOUSE」にて、東日本大震災後に受けた支援の内容や交流の様子、地域の魅力等をPR。レセプションでは各市の日本酒、岩手県の牛肉・米を提供し、好評を得た。
→ アンケートの結果、イベント前のホストタウンの認知度は14%だったが、イベント後97%がホストタウンに興味を持ったと回答。
- ロサンゼルス市議会を訪問し、2028年大会の関係者に、「ホストタウン」の取組をPR。



JAPAN HOUSE Los Angeles 会場の様子



ゲストスピーチ(高橋尚成氏)



パネルディスカッション



花巻東高校の野球部員の参加



橋本大臣のビデオメッセージ



レセプション (被災地の食材の提供) の様子



ロサンゼルス市議会へのPR

(5) ホストタウンの海外への情報発信③ ～TICAD7サイドイベント～

TICAD7（アフリカ開発会議）開催に合わせ、横浜市内において、アフリカをホストタウンとする自治体とアフリカ各国関係者との交流を行う、以下のサイドイベントを実施（8月27～30日）。

- ・ **ホストタウン・スポーツ交流会**；ボツワナのソフトボール選手を迎え、横浜市等の子どもがベースボール5（手打ち野球）で交流。
- ・ **アフリカ・ホストタウン首長座談会**；岩手県八幡平市（ルワンダ）、山形県長井市（タンザニア）、福島県南相馬市（ジブチ）、茨城県笠間市（エチオピア）、群馬県前橋市（南スーダン）、鹿児島県三島村（ギニア）の各首長が、これまでの取組や、今後の交流の展望について発表。
- ・ **子どもたちとアフリカーホストタウンを通じた交流**；八幡平市、二戸市（ガボン）、長井市、南相馬市、笠間市、大阪府守口市（ガンビア）、三島村、沖縄県中城村（カーボ・ベルデ）、北中城村（サントメ・プリンシペ）の子どもたち等がこれまでの交流の発表と選手への応援メッセージを作成。
- ・ **音楽による日本とアフリカの融合**；長井市、笠間市、埼玉県幸手市、宮崎県日向市、三島村、中城村、北中城村の伝統芸能奏者がトーゴ、ベナン、チュニジア、ギニアの演奏家とTICAD会場周辺にて共演。



(参考1) 2020ホストタウン・ハウスの設置について

- 一般社団法人ホストタウンアピール実行委員会が内閣官房オリパラ事務局と連携し、武蔵野大学 有明キャンパスに「2020ホストタウン・ハウス」を設置（2020年7月22日-8月10日、8月23日-9月7日）。
- 全国のホストタウンがこれまで行ってきたホストタウン交流の様々な活動内容、ホストタウン自治体及び相手国・地域の食、物産（ホストタウンオリジナル土産など）や景勝地等の魅力を発信する集大成の場として設置。
- 2020年を超えて交流が継続していけるよう、創意工夫を凝らしたイベントの実施や「復興ありがとうホストタウン」の特設コーナーなどを設置予定。



展示イメージ



展示イメージ

2020ホストタウン・ハウスのイメージ

キャンパス全体を4つのゾーンで構成、魅力的な施策を連携させ相乗効果を最大化

DISCOVERY

ディスカバリーゾーン

持続的活動に向けた多様なアイデアが集まる場
※11時から23時予定



COMMUNICATION

コミュニケーションゾーン

ホストタウンがこれまで行ってきた様々な活動を発表する場
※11時から20時予定



FESTIVAL

フェスティバルゾーン

各国・各ホストタウンのエンタテインメント発表の場
※屋外想定 18時から23時予定



MATCHING

マッチングゾーン

賛助会員を中心としたゾーン
※11時から20時予定



「復興ありがとうホストタウン」の常設展を設置予定



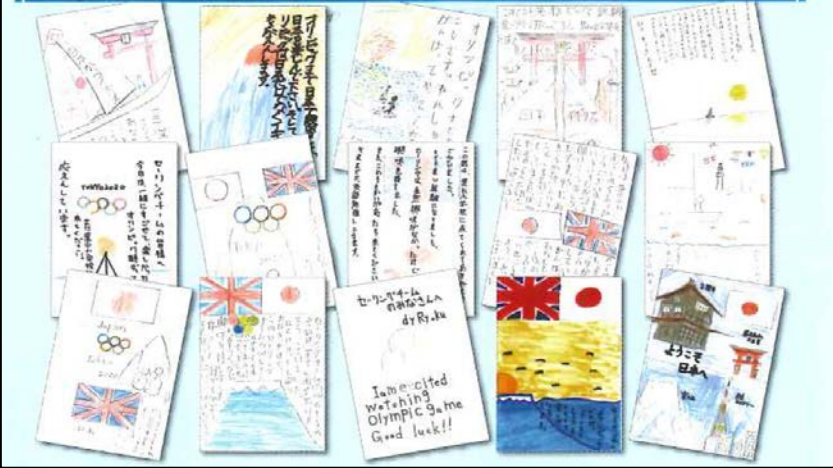
(参考2) 日本郵便によるホストタウンの取組との連携状況について

- ホストタウンフレーム切手の図柄は各ホストタウンの創意工夫により、ホストタウン相手国・地域と自治体の交流の思い出や風景などを自由にデザインできる。既に3ホストタウンで販売されて、続々と注文が殺到。
- ホストタウン内の学校から相手国へのお手紙は、これまでに10自治体、25校で作成されている。

ホストタウンフレーム切手「富士見市×セルビア共和国」 第1弾 8月26日～販売



葉山小学校から英国・セーリングチームへのお手紙



ホストタウンフレーム切手 「福井市×スロベニア共和国」 第2弾 10月7日～販売

ホストタウンフレーム切手 「三芳町×オランダ王国」 第3弾 10月21日～販売